

日本を誇りに思うとき

—海外リスクマネジメントに求められる3つの戦略

コントロール・リスクス・グループ(株)
アソシエイト・ダイレクター **岩村 浩**
Iwamura, Hiroshi

海外にあって、その現地の人々の抱く日本のイメージは何だろうか？ 先日世界遺産に登録された富士山だろうか？ 私自身の経験では、まずは日本企業の「ブランド」であった。もちろん日本に来たことのある外国人は、異口同音に日本の清潔さや治安の良さを挙げているが、ヨーロッパでも中東でもサハラ以南のアフリカでも、現地の人々の口から出てくる日本は、まさに多くの企業のブランド名であった。そのたびに私自身日本人であることを少し誇りに思うとともに、現地でそれぞれの会社の使命を懸命に果たしつつ、ご家族への配慮・ケアにも努めておられる日本人駐在員の方々のご苦勞を思ったものである。

日本人の得手・不得手

私は1994年1月から19年間、英国に在住しつつ、ヨーロッパ・中東・アフリカそして後にはアジアの日系企業の方々へのリスクマネジメントを、保険を介して行ってきた。その間、海外進出企業やその駐在員・ご家族が遭遇された、決して日本では遭うことのない事件・事故の体験を間近で見てきた。また自らも体験してきた。

日本に戻ってあらためて思うのは、日本人の得手・不得手だった。満員の通勤電車で詰め込まれても、整然と忍耐強く対応している通勤者を、本当にしばらくぶりに自分もその1人にな

りながら見て、この日本人の誇るべき(?)真面目さはやはりすごいものだと思嘆している。ロンドンの地下鉄では、少々混み合うと必ずと言っていいほど電車内でトラブルが起こるのである。

一方、特にヨーロッパなどの海外で日本人駐在員が最も不得手とすることの1つに、車を運転してラウンドアバウト(交差点のロータリー)に入ることがある。このラウンドアバウトの例のように、日本人は信号のような明確な指示・指標がない場合、相手との距離や先方の動き、そして周囲の状況を見極めてとっさに判断することに慣れていない。言い換えれば、そのような環境が日本にはあまりなく、訓練されてないということが不得手の原因だと思われる。

大きく変化する世界

ラウンドアバウトであれば、いくつかのルールを理解した上で慎重に運転し、経験を積みばよいのだが、思いもかけない自然災害や政治・治安にかかわるリスクが顕在化した場合はそうはいかない。この数十年、過去には全く思いもよらなかったほど海外の様々な国や地域で、政治や治安のみならず、自然環境までもが大きく変動している。

2002年5月に、白夜が始まったばかりのロシア・サンクトペテルブルクで私が目にしたのは、真夜中に酔っぱらってうろついている中学